



学園だより

This Student Information Booklet contains a variety of useful information for Nagoya University students, including on-campus news as well as extracurricular activities.

vol.170

2017.3

CONTENTS

コラム / 卒業生・修了生の学生生活の思い出文集 / 特集① 平成28年度名古屋大学体育会会長表彰式
 特集② 第57回体育会リーダーズ・アSEMBリー / クラブ活動 / トピックス / 教育推進部の窓 / 災害対策 / 伝言板

COLUMN

一人ひとりの個性と能力が輝く社会に

名古屋大学総長 松尾 清一

日本では、春3月は一年の締めくくりの時期であり、また旅立ちの季節でもあります。そして4月は新しい始まりの季節になります。多くの人にとってはあらためて、自分のこれまでの人生やこれからの生き方を考える季節でもあります。私自身、新しい年度のはじめのこの季節は、新たなチャレンジを期して心が引き締まる思いです。

名古屋大学でも、毎年3月に多くの卒業生を送り出し、4月に新入生を迎えます。送られる人、送る人、迎えられる人、迎える人、多くの人が名古屋大学のキャンパスで交錯し、それまでの勉強、仕事、人生に区切りつけ、新しいステージに立ちます。日本と世界で起きている様々な事柄が示しているように、現代の社会はたいへん不安定であり、私たちの常識をはるかに超えて予測不可能です。そのような中で日本と世界は、人類社会の持続的発展と幸福の実現のために解決すべき多くの課題を抱えています。名古屋大学は伝統に培われた自由闊達な環境のもと、社会貢献の高い志と確かな専門性に裏打ちされ、広い視野を持ち社会の様々な領域でリーダーシップを発揮できる人材の育成、を目指しています。名古屋大学で育った皆さんひとり一人が将来に向かってどのような目標をもって人生を歩んでゆくのか、私たち教職員にとっては楽しみでもあり、大きな期待をしています。

若い皆さんに伝えたいことは二つあります。第一に、これからの新しい人生において、一人ひとりが自分に自信を持ち、個性や能力を生かして輝いてほしいということ、第二に、自分たち一人一人が未来の日本や世界を作る大切な力であるということをしっかりと心に刻んでほしいということ、です。人生の区切りの時期にあたって、積極的にできるだけ多くの経験をすることを恐れないでください。私の座右の銘としている言葉に、「安定は動の中に在り」があります。前に進もうとする姿勢が、まわりの風景を違ったものにするでしょう。そしてまた、チャレンジする課題が見つかると思います。多少の失敗をしてもくじけず足を前に出せば、やがて自分の道が見えてくるものだと思います。新しい区切りの時期に、果敢に歩もうとするすべての皆さんに、心から期待しています。

卒業生・修了生の学生生活の思い出文集



『この瞬間を生きる』

文学部4年 丸山 広介

私の5年間の学生生活を一言で述べると、「目標を常に持った後悔のない生活」である。

今から振り返って5年前、私は名古屋大学の門をくぐった。正確に言うと、6年前にくぐるはずであったところである。1年間の浪人生活を経て入ったこの名古屋大学は、私にとって希望の場所であった。まず1年目、大学の授業は各専門でどのようなことを学べるのかを知る授業などに出た。そこで私は前から秘めていた言語学への進学を決めた。また、それ以外にも国際交流サークルに入り、私の人脈を広げることができた。いろんな経験をした人に出会うこと、それは自分の可能性を広げることである。そのおかげで、私は1年生でインドへ語学留学、2年生で中国へ語学留学、東南アジアへバックパック、3年生で自転車日本1周東日本編、台湾自転車1周、4年生（休学中）でオーストラリアへワーキングホリデー、自転車日本1周西日本編、そして5年生は自転車北海道1周をすることができた。

これらの経験の一つ一つここで話すと文字数が間に合わない。そこで私はこれらの経験を通して一番伝えたいことをここに述べさせてもらう。私はここで自分の経験の自慢をしたいわけではない。自分の人生、一度きりの人生、後悔なく過ごしたいその一心で過ごしてきた。これを読んでいる皆さんにも是非今からでも自分の人生に後悔なく過ごして欲しいと思う。これが私の一番伝えたいことである。

専門分野をとことん学ぶこと、何かのためにバイトを一生懸命頑張ること、大切な人のために時間を使うこと、趣味に没頭すること、これらすべて大学生活である。この名古屋大学はキャンパスが広く、自然もあり、とても自由な環境で大学生活が送れる。そんな名古屋大学に進学ができて私はとても誇りに思うと同時に、色々と教えてくださった教授や先輩、後輩、友人に感謝をしたい。私はこの一瞬一瞬を大切に過ごし、後悔のしない生活を今後も送っていきたいと思う。



『オリエンテーリングを、人生の軸に』

教育学部4年 川島 実紗

名古屋大学に入学し、もう4年も経ってしまったということに驚きを隠せない。早かったように感じるが、大学生活では4年前の私が想像もしていなかったことを本当にたくさん経験した。

人生において一番の転機は何だったか、と聞かれたらおそらくずっと「大学でオリエンテーリングを始めたこと」と答えることになると思う。オリエンテーリングを知らなかった私と今の私は時間の使い方、価値観、ものの見方すべてにおいて異なっている。

オリエンテーリングは地図とコンパスを使い指定された地点をいかに速く通過するかを競う競技で、日本の競技人口は2,000人ほどである。道もない森の中、長い距離を走りながら、思考を止めた瞬間に自分のいる位置が不確かになるという不安、緊張と戦うのがこの競技の特徴で、私はそこに惹かれている。常に地図から読み取れる情報と環境を照らし合わせ、10秒先の自分を想像し、10秒後にフィードバックを行うという繰り返しや、思考するためのリソースと走るための体力のバランスを意識することは今までの人生で訓練しようとも思わなかった。しかし速くなるために無我夢中で練習していたらいつの間にかできるようになっていたし、そのおかげで日常生活において自分の状態や思考を俯瞰して観測することがうまくなったとを感じる。

オリエンテーリングの世界大会に出るために、2年、3年のときに計5回ヨーロッパに遠征をした。オリエンテーリングは日本ではマイナースポーツだが、ヨーロッパではプロ選手がいたり夕方のニュースで中継されたりするほど人気のあるスポーツである。普通だったら関わりがなかったであろう「アスリート」の世界を垣間見ることができたいい経験だった。また同行したシニア選手との会話で、20歳の私にはまだいろいろな可能性が残されているのだ、人生はまだ先が長いしやろうと思えば何でもできるのだということを実感したことも世界の見方を変えるきっかけになった。

学部での卒業論文は地図を使ったナビゲーションを題材にした。発表の時にお世話になった院生さんに「オリエンテーリングに関連した研究をしたいって言ったときは無理だろうと思ってたけどよくまとめたな」と言われはしたものの、卒業論文ではオリエンテーリングではなく日常生活で行われるナビゲーションを扱った。私はぜひオリエンテーリング中の思考についてもっと勉強し研究したいと考えている。そのために自身がオリエンテーリングを続けることと、オリエンテーリングを始める人を増やすことを目標にしていきたいと思う。



卒業生・修了生の学生生活の思い出文集



『知らない世界に触れて』

理学部4年 鈴木 亜矢香

私の大学生活を振り返るにあたり、ディベートのことを語らないわけにはいきません。練習や大会での思い出がたくさんあるのももちろんですが、この活動を通じて私は、高校生の頃には考えが及ばなかった世界について学ぶことができました。

大学一年生のとき、私はE.S.S.(英会話サークル)に入りました。元々英語を学ぶことが好きだったので、特に何がやりたいというわけでもなく、ただ何となく英語に関することをやりたいというのが入部理由だったと思います。

サークル活動の一環として英語ディベートを始めたのは、大学二年生の時です。一年生の時は、先輩たちがディベートをしている姿を見て「怖い！何かめっちゃ早く話してる！！」と怖気づいてしまい、ESS全体の合宿で実際に体験してみるまでは、自分にそんなものは向いていないと思ったからです。(一年生の時は英語劇をやっていました。私は英語の発音が酷すぎたため、キャストよりも裏方メインでしたが……)

始めてみると実はその通りで、英語は全然話せないうまく論理を組み立てられないし知識は足りないしと、出来ないことだらけで落ち込む日々でした。ですが、ディベートで扱う議題は様々で……例を挙げるとキリがありませんが、名前を聞いたことすらなかった民族や政策について、多くのことを知ることが出来ました。それまでどうしても興味を持つことが出来なかったスポーツ等にも、実は興味深い様々な性質があると知ることが出来ました。それに何より、知ろうというモチベーションを得たことは大きかったです。恥ずかしながら私は、社会の授業で習うこと、ニュースで得られる情報以外には何も知らず、そういったいわゆる社会問題はどこか遠い世界のこのように感じていた世間知らずだったからです。

人との交流は言わずもがな。色々な価値観・背景を持った人々と出会えたことは、引っ込み思案な私にとってとても幸運なことだと思います。

大学生活を通して、私は様々なことを知るきっかけを得ました。今回書いたディベートはもちろん、学科での勉強や、友達・先輩・後輩達との交流も通じて。実に様々な貴重な経験をさせてもらって、本当に感謝しています。ないものねだりといいますが、色々な人と交流して、色々な知識を得たからこそ、まだまだ経験したいことはたくさんあるので、時間の許す限り、社会に出て働くようになった後も、貪欲に学びたいと思います。



『医道の端っこを歩む』

医学部6年 和田 周平

名古屋大学といえば旧帝国大学である。青年達は夜毎、天下国家を論じ、若き血潮に熱くたぎった思いをぶつけ合う。そんな光景を夢想した頃が懐かしい。

4年生の時であったか、深夜といっても良い時分。家に帰る手間より学校で過ごす居心地の悪さを比べて、もう数時間留まって授業の開始を待つことに決めた私は、講義室の前に体を横たえた。固く冷たい床は心地良く、意識を清明にするのに好都合だった。講義室前には3体の銅像があったが、医学生の中の何人が覚えているだろう。誰も注意を向けず素通りするばかり。私も初めて目を留めた。これも一つの出会いだったろう。「弱者への無限の同情、これを医道という」台座の部分にそのようにあったのが目に入った。何故だかぐっと来た。感動、共感、あるいは方向性が見えた安堵感か。自身の旗印をどこに置くべきか、弱者とは何か、つらつらと考える内、朝日は昇った。

私にとって最も身近な弱者は年老いた祖父母だった。それは、将来の親の姿であり、私自身の姿だった。デイサービスの時間に終わりはあっても、介護に区切りは無い。訪問診療・訪問看護の背後には、何倍もの長さ続く介護と葛藤、重み、言葉にならない生活実感がある。要支援1から要介護5へと、文字通り人生ゲームみたいにコマを進める彼らと暮らし、そして看取った中で、共に暮らす苦しさや後悔もあれ、そこには笑顔もあった。記憶力が落ち、性格も変化し愉快な人格が出現したり、急に真っ当なことを言って皆を驚かせたり、彼らとの暮らしは刺激的だった。高齢者は弱者だ。そして我々皆、年老いれば彼らと同じ弱者になる。彼らの生活を慮り、想像することは、将来我々がどのように生きたいかを考えることだと思う。無限の同情は無理でも高齢者への想像を豊かに働かせ、医道の端っこで良いから歩んでいきたい。



〈筆者・後列中央〉

卒業生・修了生の学生生活の思い出文集



『大学院生活を振り返って』

法学研究科 M2 見崎 史拓

大学院生活を振り返って思うのは、非常に人に恵まれた幸運な2年間だったということです。

私は、学部を卒業後、大学院の学資のために数年間社会人として民間企業で働いており、そのため大学院入学時の年齢はスタートに入学してくる人とは年齢・雰囲気ともに若干のずれがあったと思います。このように他の院生からは「微妙に扱いの困る人」であったであろう私を、先輩・同期の皆は暖かく迎え入れてくれました。皆と下らない話をしたり、ご飯を食べたり、ときに学問について長時間議論することができたことは、私にとって非常に大きな励み、そして支えになりました。社会に出た先輩、これから出る同期の皆であれば、必ずやどこにいても成功し、幸せを掴むことができると思います。離れ離れになっても、私は皆のことを絶対に忘れません。

大学院の仲間だけでなく、先生方にも多大な励ましをいただきました。とりわけ、私の自己満足にも等しい修士論文を指導して下さった先生方には、言葉では言い表せないほど感謝しております。ご自身の研究の時間を割いてまで、私の議論を何とか洗練させるために添削をしてくださり、またときには直接会ってアドバイスをくださることもありました。先生方のおかげで、何とか修士論文の提出まで漕ぎ着けることができました。本当にありがとうございました。私は来年度も博士後期課程に進学することが決定しており、よって引き続き先生方にご迷惑をおかけすることになります。何卒見捨てることなく、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

最後に、学外で私を支えてくれた皆様に感謝を申し上げたいと思います。大学院への進学という無謀な挑戦を文句ひとつ言わず支えてくれた両親には感謝してもしきれません。いわゆる「パラサイト」になりかけている私ですが、いつかご恩は返ししますのもう少しご辛抱いただければ幸いです。また、土日趣味のソフトボールに付き合ってくださっている皆、この時間がなかったら、私はストレスで押しつぶされてしまっていたらと思います。これからも一緒に楽しくソフトボールをやりましょう。



〈筆者・右から2番目〉



『一生の中の二年間』

国際開発研究科 M2 樊 榮

2015年2月、名古屋大学国際開発研究科からの合格のお知らせが届いたとき、「これが夢ではないか」と疑うほどの嬉しさを今でも鮮明に覚えています。あっという間に過ごした2年間はもう永遠に帰ってこない過去になりました。

理想とした大学院に入学することができて、ワクワク感でいっぱいでした。一学期が始まり、大学院生活がスタートし、心躍る思いでした。ハイレベルな環境に囲まれ、私はどのように学ぶべきか思案していました。授業内容を理解することができないならば、どうするべきか。また、私の日本語のレベルで授業についていけるのか、不安でした。最初の数週間はこのことが私の頭の中に占めていました。

その後、私は異なる国から来た様々な人と出会って、新しい友達を得ました。彼らはとても面白くて知的な人々です。そして、私は名大に進学して心から良かったと思います。

ゼミを受けて初めて、自分の研究に関する文献レビューをするようになりました。文献を読む習慣のなかった私は要約さえうまくできませんでした。ゼミのおかげで、練習すればするほど、まだまだ下手だが、修士論文まで仕上げることで本心に嬉しくて自分がここまでできたことに驚きました。修士論文の『談話助詞の日中対照研究—「よ」「ね」「よね」「吧」「呢」「啊」を中心に—』を始めようとしたとき、頭の中では真っ白な状態で心細かったです。指導の先生にいつも新たな視点から助言を頂いたり、先輩たちからいろいろなアドバイスを頂いたりして、また、たくさんの論文を参考にして、やっと、書けそうな内容を見つけました。できた論文は、文法や表現の間違えや未熟な考えが多くて、読む人に申し訳ないと思いました。

今思い出せば、修士論文を書く過程そのものは、授業を受けるのと同じような大変勉強になることだと分かりました。そして、書き始めとたん、苦しくて悔しくてもどかしく、思考と語彙の限界に絶望することが一生忘れられないほど最高の充実した時間でした。論文としての価値はあるかどうか分かりませんが、自分の興味に応じて、書いたものを満喫できてとても自分は満足でした。

私は日本語レベルがまだ十分でなかったため、参考文献を理解するのは他人の分析とは違ったり、正反対になったりすることがたまにありました。特にニュアンスの理解ににくい談話助詞の意味分析です。幸いな事には毎回発表することによって、どんなふうに考えて分析しても、笑われることもないし、横目で見られることもありませんでした。みんなのやさしさのおかげで、もっと自信を持っているようになりました。この2年間に書いたレジュメは数十個ぐらいで、いずれも稚拙なものだが、自分なりに書いて、その時自分の考え方を明らかにすることができて幸せでした。数年後、それを見れば、当時の発表する光景がまた生き生きとして再現されているだろう。

皆さんと一緒にゼミに参加して、皆さんの発表や評価を聞くことによって、自分一人で決して見つけられない欠点を見つけることもできて、いろいろな角度から物事を見ることもできました。ここで学んだことを一生の宝物として大切にしたいです。

終了後、私は日本の企業に入社し、人生の次のステップに踏み込みます。大変なことは多いかもしれませんが、今まで学んだことを糧に、何事にもさらにしっかりできるように進んでいきたいと思っています。



卒業生・修了生の学生生活の思い出文集



『研究室での出会い』

環境学研究科 M2 中島 慶祐

大概の名古屋大学理系学部の学生は学部4年生になると研究室に配属される。研究室はこれまでよりもより専門的に、さらにこれまで小学校から12年間当たり前のようにしてきた受動的な学習ではなく、能動的に自ら考えなければならない研究をする場である。私は自分が多くの先輩方のように研究していけるのかとても不安だった。そもそも、私は建築学科に属していたが、学部時代は入学時に想定していたほど建築に没頭することが出来ず、正直言って大学院へ進学するつもりは全く無かった。そんな私が、今では大学院を修了し、4月から建設会社の設計部で働くことになっている。これはひとえに、私が配属された研究室の先生、先輩、そして後輩の皆のおかげである。研究室に配属されて印象的だったのは先輩方の研究に対する姿勢だった。熱心なのはもちろん、研究のための基礎的な学習に手を抜かなかった。考えてみれば1、2年前まで先輩方も私と同じ立場だったはずで当然のことであるが、その姿を見て、やれば出来るかもしれない、とりあえずやってみようと思った。さらに、先輩はまさに先輩そのもので、私に研究生活のいろはを教えてくださいました。その教え方が妙にうまく、私はいつの間にか研究、そして建築に対して一生懸命になっていた。先輩だけでなく、先生は私がいけないこと、気になっていることに対していつも親切にご指導、あるいは一緒になって悩んでくださいました。後輩の研究に対する姿勢には、自分自身の先輩のように、私が後輩にとって同じ存在でありたいと思うことで更にやる気を起こさせられた。ときには、研究と関係のない他愛もない話も出来、リラックスすることも出来た。もともと建築に興味のない建築学生だった私が、この研究室に配属され、研究室の皆に出会ったことで、建築を生業にすることを目標とする建築学生に変わった。今2年、3年生でもしかしたら今の専門分野を選択したことを悔やんでいる学生がいるかもしれない。せっかく大学に入学できて学んでいるのだから、今はなんとなくでも与えられたことをしっかり身につくよう学習しておくことをおすすめしたい。研究室に配属され、先輩、先生、あるいは後輩の姿を見てから自分の選択が正しかったかどうか判断してみてもどうか。



(筆者・右端)



『5年間の留学生活』

情報科学研究科 D3 呉 偉

スーツを着て、図書館前の木の高い道を通って、院試を受けてから、博士前期後期合わせて5年間を過ごしました。様々な人との出会いがあり、素晴らしい5年間でした。

2012年に初めて名古屋に来たとき、四月なのにこんなにも寒いのか、と感じました。留学生寮のガイダンスで「愛知県の交通環境や、犯罪率などは日本の中でもかなり悪い方ですので、気をつけてください」と警告された記憶は今までも覚えています。その数日後、留学生支援をしている日本人学生に親切にして頂いた時、やっと春の暖かさを感じることができました。その温かさは今でも続いています。名古屋を選び、名古屋大学に入って本当によかったと思っています。

最初日本語で理系の授業を受けるとき、「アルゴリズム」というカタカナも読めませんでした。留学生センターで日本語を勉強しながら、専攻の内容を必死に覚えたこともはっきり覚えています。そして、いつの間にか、やっている研究の楽しさを知り、少し好きになりました。徹夜で修士論文を書くときに、疲れたら、研究室の先輩と一緒にゲームをしていました。頑張った結果として、国内と海外発表の機会も頂きました。北海道で発表しに行ったとき、飛行機の値段が高いので、青春18切符を使って行ったこともありました。旅は長かったですが、風景はとてもきれいで楽しい旅でした。

5年間の間に、両親が私の海外留学の様子を見に来たことがあります。南部食堂で学食を食べたり、名大祭で楽しんだりしました。母が迷子になってしまい、全く知らない日本人に助けられ、家まで送って貰ったこともありました。

博士後期課程に入ってから、後輩との共同研究が増えてきました。3月になると1年頑張ってきた仲間と別れるのは気が重いです、四月になるとまた新しい出会いが待っています。

今、私は指導教員と情報科学研究科の先生への感謝の気持ちでいっぱいです。先生の推薦のおかげで奨学金を頂くことができ、研究に専念することができました。おかげさまで四月から、私も教員になることができました。自分ももっと努力して優秀な教員になり、もっともっと沢山の優秀な学生を育て、恩返しをしたいです。



(筆者・中央)

特集① 平成28年度名古屋大学体育会 会長表彰 表彰式

平成28年度名古屋大学体育会会長表彰表彰式が、12月14日に豊田講堂第1会議室において、名古屋大学体育会により挙行されました。

この表彰は、本学体育会に加盟するクラブにおいて、前年度11月から今年度10月末までに各種競技大会で優秀な成績を収めた個人、団体及びその指導者の栄誉を讃え、その功績を広く顕彰することを目的に、平成元年に創設された制度です。

今年度は、個人7名と8団体が本学体育会会長の松尾総長から表彰され、1年間のめざましい成果が讃えられました。加えて、松尾総長及び國枝理事・副総長からは、今冬から来夏にかけて本学主管で開催される全国七大学総合体育大会（通称 七大戦）の総合優勝に向けて、体育会への期待の言葉が述べられました。

なお、受賞した個人及び団体には、副賞として名古屋大学校友会から記念品等が贈呈されました。



◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 平成28年度 名古屋大学体育会会長表彰 受賞者一覧 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

表彰対象期間：平成27年11月1日～平成28年10月31日

● 個人の部（7名）

運動部名	氏名（学部・学年）	該当賞	出場大会名及び成績
フィギュアスケート部	二宮 初音 経済学部・2年	会長賞	第10回西日本学生フィギュアスケート選手権大会 兼 第89回日本学生氷上競技選手権大会選考会 女子Cクラス 1位
ライフル射撃部	日下 星野 理学部・4年	会長賞	第27回西日本学生ライフル射撃選手権大会 50mP60M 優勝
ゴルフ部	上田 敦士 経済学部・1年	会長賞	平成28年度中部学生ゴルフ選手権 優勝
トライアスロン部	尾関 将樹 工学部・3年	会長賞	2016東海・北陸学生トライアスロン選手権 日本学生トライアスロン連合杯 男子総合 第1位
弓道部	桑原 歩美 情報文化学部・3年	会長賞	第51回中日本弓道近の選手権大会 一般女子個人 優勝
航空部	守法 亮佑 環境学研・院1年	会長賞	第35回東海・関西学生グライダー競技会 優勝
アーチェリー部	玉越 直子 理学部・1年	会長賞	2016年度東海学生アーチェリーフィールド選手権大会 リカーブ部門 女子個人 優勝

● 団体の部（8団体）

運動部名	該当賞	出場大会名及び成績
ボート部	会長賞	第48回中部学生選手権競漕大会 総合 第1位 第48回中部学生選手権競漕大会 男子総合 第1位 第48回中部学生選手権競漕大会 女子総合 第1位
フィギュアスケート部	会長賞	第10回西日本学生フィギュアスケート選手権大会 兼 第89回日本学生氷上競技選手権大会選考会 女子Cクラス団体 1位
航空部	会長賞	第35回東海・関西学生グライダー競技会 優勝
アイスホッケー部	会長賞	第24回中部学生アイスホッケー選手権大会 優勝
男子ラクロス部	会長賞	第1回あかつきカップ 準優勝
ソフトテニス部	会長賞	第55回全国七大学総合体育大会 ソフトテニス競技女子の部 団体戦 優勝（二連覇）
馬術部	会長賞	第55回全国七大学総合体育大会 馬術競技 総合優勝
ハンドボール部	会長賞	第55回全国七大学総合体育大会 ハンドボール競技 優勝

特集② 第57回リーダーズ・アセンブリー

実行委員長 渡辺駿斗(名古屋大学体育会)



昨年12月18日に、豊田講堂シンポジオンホールにて、リーダーズ・アセンブリー(以下、L.A.)を開催いたしました。

L.A.とは、教育推進部と体育会の共催で行われる研修会で、体育会に所属するクラブの指導的役割を担う学生(主将、主務等)を対象としています。今回で57回を迎えるこの会は、クラブの強化や発展さらに幹部のあり方について話し合い、クラブをより良いものにするとともに、クラブ間のつながりを築くことを目的としています。

午前中はあらかじめ各クラブに行ったアンケートから、似た問題を持つクラブ同士でグループを作り、問題を解決するにはどうしたらよいかについて話し合いました。トレーニング方法や新入部員の確保、運営費、練習場所など様々なテーマについて、各部の現状を話し合い、対策を模索しました。午後には各グループで話し合った内容について発表を行い、出席者全員に周知しました。

グループによる発表後は、本学総合保健体育科学センターの水野貴正講師に、「トレーニング方法について」というテーマで、前半は講義形式、後半は実技形式で講習をしていただきました。講義では、トレーニングの方法、計画の立て方に加え、生活での心構えまで教えていただき、実技では、バランスボールを用いた効果的なトレーニングを教えていただきました。バランスボール一つで運動強度を格段に高めることができるということで、各クラブでも是非取り入れてほしいと思っています。

今回のL.A.で得た情報を各クラブに持ち帰り共有いただき、今後のクラブの運営や強化に役立てていただければ幸いです。最後になりましたが、今回のL.A.を開催するにあたりご尽力いただいた関係者の皆様には、厚く御礼申し上げます。



クラブ活動

硬式野球部

私たち硬式野球部は、現在愛知大学野球連盟3部リーグに所属し、部員41人で活動しています。昨秋まで所属していた2部リーグではプロ野球選手も誕生しました。そのような高いレベルで野球ができることに感謝し、いち早く2部リーグに復帰すべく、日々練習に励んでいます。練習の際には、個々の自主性を尊重しており、選手間で意見を出し合って効率の良い練習をすることを心がけています。

また、今夏には名古屋で七大戦が開催されます。主管校として、他の旧帝大には絶対に負けたくないという思いも今のチームの原動力となっています。



裏千家茶道部

私たち裏千家茶道部は、週に二回学生会館の和室で活動しています。主に6月の名大祭茶会と12月の白露茶会に向けて、互いに教え合いながらお稽古をしています。

名大祭茶会では一般の方にお点前を見ていただきながらお茶とお菓子を振る舞い、白露茶会では、他大学の茶道部の方やOB・OGの先輩方に、手作りのお菓子や点心という軽いお食事と共にもてなします。

部員は大学から茶道を始めるという初心者もたくさんいますが、先輩が一から丁寧に教えてくださるので心配いりません。使うお道具やお点前の変化で季節の移り変わりを感じながら、日本の伝統文化に触れられる素敵な部活です。



トピックス

第53回須賀杯争奪駅伝競走大会

実行委員長 中村真務 (名古屋大学体育会)

昨年11月12日(土)に、名古屋大学体育会と豊田工業高等専門学校(以下「豊田高専」という。)学生会の共催で第53回須賀杯争奪駅伝競走大会を開催しました。この大会は名古屋大学と豊田高専のスポーツ振興を図ることを目的として、元名古屋大学学生部長の故須賀太郎先生が豊田高専の初代校長に就任された際、昭和39年(1964年)に第1回大会が開催されたことが始まりとされています。昨年で第53回目を迎え、半世紀以上続く伝統ある行事として、我々体育会の大きなイベントの一つとなっています。

平和公園での開催は今回で3度目となり、比較的なだらかな1周約3.0kmのコースでの実施となりました。

名古屋大学から13チーム、豊田高専から8チームの計21チームが参加し、毎年参加しているチームを含め体育会系のクラブから多くの参加があり、非常にレベルの高い大会となりました。また、1周を9分台に迫るような走りや周囲を驚かせる選手や、全員が女子のチームで最後まで走り切るチームなどがありました。今大会は全チームが完走し、各チーム充実した顔を見られたことが印象に残っています。

今大会も周りの方々の助力により無事に成功を取ることができました。準備の段階で何度も挫折しそうになりましたが、それと同時に本大会の大切さも感じつつ、ひたすらに準備を続けていきました。今大会に参加して下さった選手の方々の充実した表情や楽しそうな声を聞き、とても晴れやかな気持ちになりました。

最後に、今大会の開催は周りの方々のご協力があってこそであり、また企画・運営に携わった方々のみならず、大会に参加して下さった選手の皆様のおかげで大会を盛り上げることができました。至らない点が多かったかもしれませんが、ご協力いただいた皆様から感謝いたします。本当にありがとうございました。



総合成績 (上位6チーム)

順位	チーム名	団体名	所属	最終タイム
1	名古屋大学オリエンテーリング部	オリエンテーリング部	名大	1:05:30
2	卓球部A	卓球部	名大	1:06:31
3	杉浦選抜	ソフトテニス部	名大	1:10:03
4	卓球部C	卓球部	名大	1:12:04
5	水泳部A	水泳部	高専	1:12:09
6	スーパーサブ	名古屋大学スーパーサブ	名大	1:12:20

※タイム表記は「時:分:秒」

第56回全国七大学総合体育大会 名古屋大学主管

『名古屋大学体育会、2017年を転換期に!』

さあ、今年も「全国七大学総合体育大会」、通称「七大大戦」が開催されます。七大大戦は第56回大会を迎え、今年はこちらが名古屋が開催の地となります。この七大大戦には、旧帝国大学である北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学の学生が参加し、毎年、熱い戦いを繰り広げています。

さて、冒頭に書かせていただいたとおり、今年はこちらが名古屋大学体育会にとって大きな転換期となるべき年となります。まず、ここ最近の名古屋大学の七大大戦における順位ですが、前回主管時の第49回大会で2位だったものの、その後は4位、5位、6位、5位、6位、5位と不甲斐ない地位を占め、総合優勝はここ14年遠ざかっています。

私たち第56回七大大戦実行委員会は最大目標として「七大大戦総合優勝」を掲げ、今年をクラブ強化のターニングポイントとすべく、さまざまな取り組みをしているところです。

大会参加クラブも、名古屋大学体育会全体の底上げを図るといった意識を持ち、より一層日々の活動に熱を注いでいます。14年ぶりとなる総合優勝を果たすことで、各クラブにとって「強化」という点で今年が大きな転換期となることを目指します。

また、同時に名古屋大学体育会本部にとっても、今年は大

きな転換期にしなければなりません。これまでの、大学と各クラブとのつなぎ役、遠征費等の活動費のサポート、体育会所管の各種イベントの運営という関係で終わるのではなく、各クラブが強くなるための具体的な仕組み・政策を取り入れ、各クラブと関係性を強め互いに成長していく必要があります。七大大戦主管をきっかけに、体育会本部は名古屋大学における学生体育活動の司令塔のような存在となることを目指します。今年には体育会本部と各クラブの「関係性」という点でも大きな転換期となるでしょう。

以上、七大大戦を「名古屋大学体育会の転換期」とすることをコンセプトとし、実行委員会一同は活動しております。

第56回大会は、すでに一部の競技を終えています。今後夏にかけてさらに七大大戦を盛り上げるため、皆さまどうか応援よろしくお願いたします。

第56回全国七大学総合体育大会
実行委員長 桑山 晃久

第56回マスコット
ナゴすけ

全国七大学総合体育大会

参加大学が旧帝国大学(北海道大、東北大、東京大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)であることから、七大大戦、七帝戦と略され、長い間学生に親しまれている。七大大戦は、真のアマチュアリズムの追求、学生による自主運営、競技レベルの向上、他大学との親睦、運営費の削減、といった5つの理念を掲げ、各大学の持ち回りで大会運営が行われている。

北海道大主管の第1回大会(昭和36年)では参加者2,000人20競技が開催されたが、第49回大会では参加者7,000人42競技にまで規模が拡大し、総合体育大会の名にふさわしいものとなったが、反面、予算の肥大化や大会日程の長期化が課題となっている。

精神・発達障害に関する理解促進セミナー

学生相談総合センター 障害学生支援室

最近、精神障害や発達障害という言葉が頻繁に耳に聞こえていませんか。今年度「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行されたことも一役買っているかもしれません。名古屋大学では、この法律の施行を受け、障害者への理解を促進するために様々な研修機会を設けてきました。しかし、それらは教職員対象であり、学生を対象とした研修会の開催には至っていませんでした。学内には精神障害や発達障害の教職員や学生もいます。実際に本人や周囲の人たちから、戸惑いを感じたり対応に悩んでいるといった意見を聞くこともあります。

そこで、学生相談総合センターでは、2017年2月13日に学生を対象として「平成28年度精神・発達障害に関する理解促進セミナー『こころの病』って本当のところ何だろう？」を開催しました。本センターメンタルヘルス部門助教で精神科医である長島渉先生が、自らの臨床経験を踏まえたお話をしてくださいました。精神障害や発達障害の人に対応する際には「あなたのことを心配しているのだ」というメッセージを伝えながら話を聞く、生活リズムを整えるよう声かけをするなど具体的なアドバイスをいただきました。

会場には100名を超える参加者が熱心に耳を傾けていました。「とてもわかりやすかった」、「周囲に困りが難しい学生がおり困っていた。今後の対応に役立てたい」、という感想が寄せられました。学生相談総合センターでは、今後も精神障害や発達障害、さらにはひきこもりや労働法規に関するセミナーを引き続き開催していく予定です。

学生相談総合センターは、精神科医が診察にあたるメンタルヘルス部門、臨床心理士が相談に対応する学生相談部門、キャリアカウンセラーが就職相談に当たる就職相談部門、そして障害者に対する支援を行う障害学生支援室から構成されています（右図参照）。各部門・室では皆さんの相談を受け付けております。各部門・室は連携しておりますので、相談しやすいところに連絡していただいで構いません。お気軽にご連絡ください。



【聴衆からの質問に答える長島渉先生】



【学生相談総合センター案内】

学生相談総合センター連絡先

相談総合案内（学生相談部門・メンタルヘルス部門・就職相談部門・障害学生支援室）

U R L <http://gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp/>
 T E L 052-789-5805
 M A I L soudan@gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp

教育推進部の窓

名古屋大学課外活動施設の利用案内

教育推進部学生交流課

本学には、一般学生及び教職員が利用できる施設として以下のような施設があります。施設の概要、利用方法詳細については、学生便覧に詳しく記載してありますが、不明な点があれば、学生交流課課外活動係（Tel.052-789-2164又は2165）まで問い合わせください。

<運動施設>

運動施設には、総合運動場（陸上競技場、野球場、硬式テニスコート、フットサルコート等）、体育館、屋内プール等があり、総合保健体育科学センターの使用（授業、行事等）及び体育会所属運動部の使用時間を除いて利用できます。

利用希望者は下記により申し込んでください。

運動施設の名称	▶ 陸上競技場 ▶ 野球場 ▶ 硬式テニスコート ▶ フットサルコート ▶ 第1・第2・山の体育館
申し込み開始日	▶ 使用月の前月 ▶ (第3月曜日17時以降)
使用願用紙の交付・提出場所	▶ 運動施設予約システム (名大ポータル→キャンパス→キャンパスライフ)
運動施設の名称	▶ 第3グリーンベルト
申し込み開始日	▶ 使用日の1か月前以降
使用願用紙の交付・提出場所	▶ 体育会事務室（学生会館2階）
運動施設の名称	▶ 屋内プール
使用可能日	▶ 一般学生のためのプール開放は夏季休業中の午後（日曜を除く）と授業期間中の決められた曜日（週2日程度）の授業終了後に行われます。これ以外の時間帯での一般学生のプールの利用はできません。プール開放の詳細については、総合保健体育科学センターホームページ（ http://www.htc.nagoya-u.ac.jp/ ）をご覧ください。
手続場所	▶ 屋内プール

<学生会館>

学生会館には、談話室、集會室（9室）、和室（2室）があります。集會室又は和室を利用する場合は、学生会館事務室で使用許可願の用紙を受け取り、必要事項を記入し、許可を受けてください。



<中津川研修センター>

本センターは、自然豊かな岐阜県中津川市にあり、共同生活を通じて学生、教職員及び大学間の交流を図るとともに、課外教育等により大学教育の効果を高め、学生の人間形成に資することを目的に設置されています。

本センターには研修室や体育館が設置されており、また、センター周辺には中津川市等が管理するスポーツ施設や、妻籠宿、馬籠宿等の観光地が多数あります。

学生あるいは教職員の5名以上の団体で、4泊5日以内であれば本センターを利用できますので、研究室でのゼミ合宿、クラブサークルの合宿はもちろんのこと、リフレッシュや親睦を目的とした活動など、幅広い用途に積極的に活用してください。

なお、申請方法や利用料金等については、本センターのホームページを参照いただくとともに、不明な点は学生交流課課外活動係まで気軽にご相談ください。

ホームページURL

<http://www.2jimu.nagoya-u.ac.jp/nakatsugawa/>

教育推進部の窓

平成29年度学年暦について

教育推進部教育企画課

平成29年度の名古屋大学の学年暦は以下のとおりです。
時間割表の変更、休講、定期試験の実施方法、学生への連絡事項等の案内、連絡は掲示板により必要の都度行われますので、十分注意してください。

■春学期

4	月 火 水 木 金 土 日 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	4/1~10 新生ガイダンス等 4/5 入学式 ※4/11 春学期授業開始日 4/11~6/11 春1期授業期間
5	月 火 水 木 金 土 日 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	5/1 名古屋大学記念日 5/13 春1期木曜午後開講授業用の授業予備日 5/27 春1期授業予備日
6	月 火 水 木 金 土 日 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	6/6 春1期金曜開講授業用の授業予備日 (6/8午後~6/11 名大祭) 6/12~8/7 春2期授業期間
7	月 火 水 木 金 土 日 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	7/15 春2期授業予備日
8	月 火 水 木 金 土 日 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	8/8~9/30 夏季休業
9	月 火 水 木 金 土 日 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	9/25~29 G30新生ガイダンス等 9/27 秋季卒業式

■秋学期

10	月 火 水 木 金 土 日 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	10/1 秋季入学式 ※10/2 秋学期授業開始日 10/2~11/30 秋1期授業期間 10/26 地震防災訓練
11	月 火 水 木 金 土 日 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	11/28 秋1期授業予備日 11/29 秋1期金曜開講授業用の授業予備日
12	月 火 水 木 金 土 日 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	12/1~2/9 秋2期授業期間 12/26 秋2期授業予備日 12/28~1/7 冬季休業
1	月 火 水 木 金 土 日 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1/12 休講予定(センター試験準備) 1/13・14 入試センター試験
2	月 火 水 木 金 土 日 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	
3	月 火 水 木 金 土 日 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	3/26 卒業式

学生教育研究災害傷害保険制度

教育推進部学生支援課

みなさんが、講義、実験、実習、演習または実技などの正課中、各種学校行事中、学校施設内にいる間、課外活動中及び通学中などに不慮の災害事故により身体に傷害を被ることは、万全の注意を払っていても発生することがあります。

このような不測の事態の被害の救済のため「学生教育研究災害傷害保険制度」があります。保険料は極めて低額になっておりますので、未加入者は必ず加入するようにしてください。

本学では、平成27年度に73件の事故に対して、約513万円の

保険金が支払われています。

新たにこの保険に加入しようとする学部生（留年・休学により保険の期限切れとなっている学生）、大学院生、研究生などは、所属学部等の教務学生担当係で所定の手続きをしてください。

なお、すでに加入している学生で、この保険の対象となる事故が生じた場合、ただちに事故の日時、場所、状況、傷害の程度を所属学部等の教務学生担当係まで連絡してください。

＜医療保険金について＞ 医師の治療を受けたとき、治療日数により下記保険金が支払われます。

入院加算金については、1日から対象となります。

	治療日数	支払保険金	入院加算金 (180日を限度)
正課中・学校行事中 (治療日数が1日から対象となります。)	治療日数 1日～ 3日	3,000円	入院1日につき 4,000円 (注)入院加算金は、 医療保険金の 支払の有無に 関係なく入院 1日目から 支払われます。
通学特約加入者の通学中・学校施設等相互間の移動中 (治療日数が4日以上の場合が対象となります。)	◇ 4日～ 6日	6,000円	
	◇ 7日～ 13日	15,000円	
上記以外で学校施設内にいる間・学校施設外での 課外活動(クラブ活動)中 (治療日数が14日以上の場合が対象となります。)	◇ 14日～ 29日	30,000円	
	◇ 30日～ 59日	50,000円	
	◇ 60日～ 89日	80,000円	
	◇ 90日～ 119日	110,000円	
	◇ 120日～ 149日	140,000円	
	◇ 150日～ 179日	170,000円	
	◇ 180日～ 269日	200,000円	
◇ 270日～	300,000円		

(注)上記の保険金は、生命保険、健康保険、他の傷害保険、加害者からの賠償金と関係なく支払われます。

学研災付帯賠償責任保険制度

教育推進部学生支援課

① 保険の内容

日本国内外において、正課、学校行事等及びその往復で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害について補償します。

② 加入の対象者

学生教育研究災害傷害保険に加入している学生に限ります。

③ 対象となる活動範囲

Aコース 学生教育研究賠償責任保険（略「学研賠」）

正課、学校行事、課外活動及びその往復。（Bコースの活動範囲を含む）

Bコース インターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険（略称「インターン賠」）

インターンシップ、介護体験活動、教育実習、保育実習、ボランティア活動及びその往復。但し、大学が、正課、学校行事、課外活動として認めた場合に限る。

Cコース 医学生教育研究賠償責任保険（略称「医学賠」）

医療関連学部・学科の正課、学校行事、課外活動及びその往復。（Aコース、Bコースの活動範囲を含む）

Lコース 法科大学院学生教育研究賠償責任保険（略称「法科賠」）

対人・対物賠償：法科大学院等の正課、学校行事、課外活動及びその往復。（Aコース、Bコースの活動範囲を含む）
 人格権侵害補償：臨床法学実習による不当行為に起因する事故。

④ 補償金額（支払限度額）・保険料

活動内容	Aコース	Bコース	Cコース	Lコース
補償内容	学生教育研究賠償責任保険（略称「学研賠」）	インターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険（略称「インターン賠」）	医学生教育研究賠償責任保障（略称「医学賠」）	法科大学院学生教育研究賠償責任保険（略称「法科賠」）
対人賠償 対物賠償	対人賠償と対物賠償合わせて1事故につき1億円限度（※免責金額0円）			
人格権侵害賠償				損害賠償請求者1名あたり1,000万円限度（※免責金額0円）
保険料分担金（1年間）	340円	210円	500円	1,640円

※免責金額とは、自己負担額をいいます。

<対象となる事故例>



① 正課で化学の実験中、間違っって薬品を混ぜ、爆発事故を起こしてしまい、クラスメイトに火傷を負わせてしまった。（A・C・Lコース対象）



② 学園祭で、焼鳥屋の模擬店を出店したが食中毒事故を出してしまい、5人が入院してしまった。（A・C・Lコース対象）



③ 正課でのインターンシップ活動中、派遣先の機械を使用し、誤って壊してしまった。（A・B・C・Lコース対象）



④ 授業を受けるために自宅から大学へ行く途中、駅の階段を駆け降りたとき、誤って前にいた老人にぶつかってしまった、大けがをさせてしまった。（A・C・Lコース対象）

学研災付帯学生生活総合保険

教育推進部学生支援課

学研災付帯学生生活総合保険は、学生教育研究災害傷害保険加入者を対象に、病気・ケガの入院・通院が1日目から補償される等の特色のある学生生活全般に補償を広げた保険です。加入は任意加入となっています。

補償内容・加入方法については、「学研災付帯学生生活総合保険パンフレット」を参照してください。

災害対策

身のまわりの防災を見直す

◆ 自宅の安全確保

私たちは建物の中にいることが多く、特に自宅で1日の1/3の時間を過ごしています。つまり自宅の安全性を高めることが、最も効果的な防災対策になります。そのためにまず、生活の便利さだけでなく、災害時の安全性を考えて住む場所を決めてください。地震や水害の危険度は、過去の災害や地盤・河川の情報を考慮して作成された「ハザードマップ」などでわかります。

次に、建物の地震に対する強さに関心を持ってください。一般的には新しい建物ほど耐震性は高く、特に法律が変わった1981年頃を境に前後で大きな差があります。また、年数がたつてると劣化の影響も出てくるので、なるべく新しい建物を選んで住むようにし、自宅であれば十分なメンテナンスや耐震診断・耐震改修などを行ってください。

◆ 室内の安全対策

地震の際には、震度4くらいから室内の被害が起り、震度6強を超えるとほとんどの家具が転倒してしまいます。重く大きな家具、壊れやすいガラス、熱い調理器具などは特に危険です。また、寝ている人を直撃したり、避難経路をふさぐような家具も要注意です。室内の被害により避難や救助が遅れると、余震や火災・津波の危険も増えます。

家具の安全対策には、住む人の努力が重要です。まず危険な家具はなるべく減らし、重いものはなるべく下に置くなど、倒れた時の被害を少なくすることが第一です。次に家具を確実に固定するためには、壁や床の構造と家具の重さに注意し、十分な強度のある位置にしっかりと金具やネジで止める必要があります。不十分な固定では、かえって被害を大きくすることもありますので、わからない場合は安全対策の専門家に依頼することも検討しましょう。

◆ 大学の安全対策

学生が多くの時間を過ごす大学では、様々な防災対策が進められています。名古屋大学では「家具安全対策ガイドライン」や「実験機器地震対策ガイドライン」を定めて、地震時の室内安全確保と貴重な研究機材・研究環境の保護に努めています。さらに年2回の全学防災訓練などで非常時の行動を確認し、大災害時の避難、安否確認、食料、帰宅困難対応などを一人一人に身につけるようにしています。災害の際には、事前の準備と落ち着いた対応が重要になります。身の回りに起こり得る様々な状況を想定して、日ごろから行動内容や持ち物を見直すようにしましょう。

災害対策室や減災連携研究センターのホームページ、減災館の展示なども参考にしてください。



伝言板

学生証は大切に

教育推進部教育企画課

最近、学生証紛失による再交付の申請及び磁気不良の修正が増えています。学生証は本学の学生であることを証明するものであるだけでなく、在学証明書等の発行や中央図書館への入館等にも必要です。

万一紛失したり盗難に遭ったりした場合は、必ず警察へ届け出てから、所属学部教務学生係等にて再交付の手続きを行ってください(有料)。紛失した学生証が悪用され、思いがけない迷惑や被害を受けることもありますので、十分注意してください。

また、磁気不良については、スマートフォン等、磁気を発生するものの影響が考えられますので、それらの近くに置かないようにしてください。

自転車の盗難防止・走行上の注意について

教育推進部教育企画課

学内において、自転車盗難の犯罪が増加しています。駐輪する際は短時間であっても必ず施錠をし、鍵も二重ロック(ツーロック)にしてください。自転車窃盗犯の約70%がツーロックされている自転車は盗まないと述べています。

なお、当然のことですが、他人の自転車を無断で使用する行為は犯罪行為です。自転車の窃盗は刑法第235条の「窃盗罪」であり、10年以下の懲役・50万円以下の罰金が科せられます。警察に検挙された場合、必ず書類送検され、さらに本学からは学則に基づき懲戒処分が課せられることがあります。絶対に行わないでください。

また、自転車走行上の注意として、東山キャンパス周辺は坂の多い地形ですので、特に下り坂でのスピードの出し過ぎや一時停止の無視等により、歩行者や他の車両との事故を起こさないよう、十分に注意してください。たとえ自転車でも、歩行者に接触すると命にも関わる大事故につながりかねません。周囲に配慮した、優しい走行を心がけてください。

ゴミ出しはルールとマナーを守って

教育推進部教育企画課

名古屋市では、各家庭から排出されるゴミは、種類毎に分別し、種類毎に指定された曜日・場所に出すことになっています。

名古屋市内で単身で下宿生活を送っている学生は、地域の一員としてこのゴミ出しルールに従い、ルールとマナーを守ってゴミを出すようにしてください。分別していないゴミは、処理できず放置される原因にもなります。

ゴミの出し方(種類の分け方)が判らないときは、各区の環境事業所、または町内会の保健委員の方に尋ねるようにしてください。

なお、学内に家庭ごみや粗大ごみを持ち込んで投棄することは、不法投棄ですので絶対行わないようにしてください。本学では、不法投棄を発見した場合、警察への通報などの対応を取っています。